

会員からのお便り

ペースメーカー友の会に入会して

理事 村松 徹夫

金づちを返上するために始めた水泳教室でコーチに聞かれました。「からだ大丈夫ですか。」と。私は、コーチの突然の質問に多少びっくりしましたが、たぶん私のペースメーカーの植え込み跡を見て心配しているのだなと直ぐわかりました。私は、「医師に確認しましたので大丈夫です」と答えましたが、心配顔のコーチのために再度確認し翌週に再度大丈夫なことを伝え理解していただきました。私のペースメーカー歴は、今年の10月で2年になります。経験はそんなに長くはありませんが、ペースメーカー友の会に入会して良かったと思っております。

私は学生時代から運動部に所属し心臓に関しては強い方と自負していました。社会人になっても人間ドック、検診等で心臓が指摘されたことは一度もありませんでした。そんな令和3年です。前立腺がんを手術するため受けた検査で不整脈が見つかり翌令和4年にアブレーション手術を受けました。更にその後洞不全と診断され翌令和5年にペースメーカーを植込みました。医師の説明は十分理解できましたが、これまで持っていた心臓への自信が崩れ去り、機械が入った自分の体と共に生きていかなくてはならない、これからどうなってしまうのか、植え込んだ者なら誰でも通る道とはいえ不安感の方が大きかったと思います。

そんな時に、私は病院の待合所でペースメーカー友の会のパンフレットに出会いました。私はこれだと思います。この時の心境を言葉にすると、まさに「藁をも掴む思い」「渡りに船」「天は我々を見放さなかった」(映画「八甲田山」から、本当は「天は我々を見放した」が正解)等と考え、退院後入会しました。

入会して驚いたことは、私が思っていた以上の会ということでした。全国組織で埼玉県内だけでも100人以上の会員があり、その友の会が中心となって、会員との連絡を取り合い誕生日カードを郵送したり、会食やイベントを催したりしている。決して一人にはならない。また、生活する上で疑問に感じたことなどを持ち寄り、友の会編集の冊子Q & Aで確認したり専門医の先生に相談したりできる体制ができている。日常生活でありがちな疑問や心配ごと、例えば電子レンジは近くで操作して大丈夫か、車のスマートキーは大丈夫か、サウナは、駅の自動改札機は大丈夫か等、細かい疑問を解消することが出来るのです。もし水泳のコー

チに何も答えられずにいたら、私はたぶん水泳教室は辞めていたと思います。

この会のいいところは「みな病人だから。みな同じ仲間である。」ということです。そして、平均寿命を超えて元気な先輩方の生き方を目の当たりに見させていただけることは今後の自分の生きる力となっています。私はこれがペースメーカー友の会の役目なのではないかと思います。自分の置かれた状況、将来に対する漠然とした不安、誰に聞いたらいいのかわからないもどかしさなどを少しでも和らげくれるのがペースメーカー友の会です。我々はみな同じ病人同志、助け合っていこうという気持ちを忘れずに頑張っていきたいと思います。

追伸、やっと 25 メートル泳げるようになりました。次の目標は 50 メートルです。

